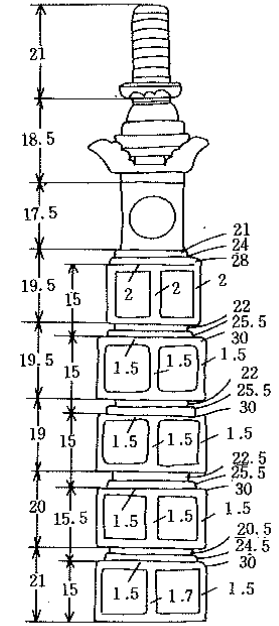


第36図 宝蔵寺の宝篋印塔(1)



逆修 性及禅尼  
 应永十七年三  
 月十八日

逆修 知芳禅門  
 应永廿七年三  
 月 日

逆修 性定禅尼  
 应永十七年二  
 月十八日

逆修 大口禅門  
 应永十二年三  
 月廿日(第三  
 六図)

本堂東に一基別に

逆修 淨祐禅門 应永廿七年三月 日(第三八図)

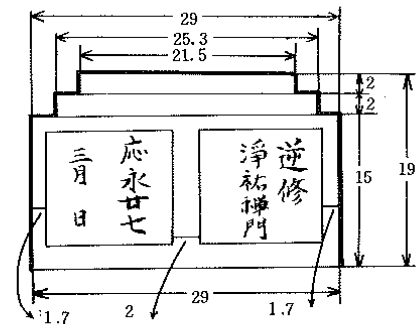
東西列墓石群中の北側のものは

逆修 道全禅門 应永十七年四月廿八日

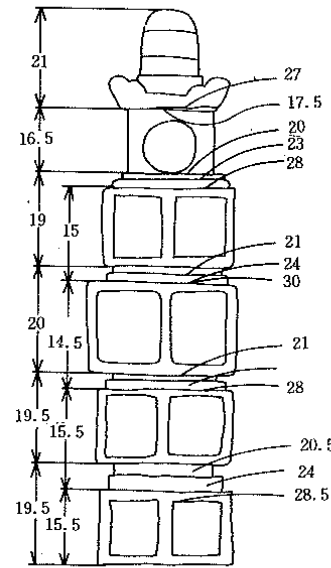
逆修 同行 应永十七年二月十五日

逆修 道□禅門 应永十七年三月十八日

第38図 宝蔵寺の宝篋印塔(3)



第37図 宝蔵寺の宝篋印塔(2)



逆修 了見禅門 应永十七年三月十八日

逆修 □阿禅門 应永十七年三月十八日(第三七図)

即ち、应永一二年が一基、二七年が二基、三月建立が六基、二月が三基、四月が一基、男性によるものが六基、女性によるものが三基、同行として志を共に寄せる人が一基となって居ります。ちなみに一二年は乙酉、一七七年が庚寅、二四年が丁酉、二七年が庚子の干支に当ります。そして应永一〇年は一四〇五年、廿七年は一四二〇年に当ります。

应永のこの頃、なぜこんなに供養がなされたのでしょうか。然も全部逆修です。

この時の天皇は後小松天皇と称光天皇、そして將軍は四代義持です。

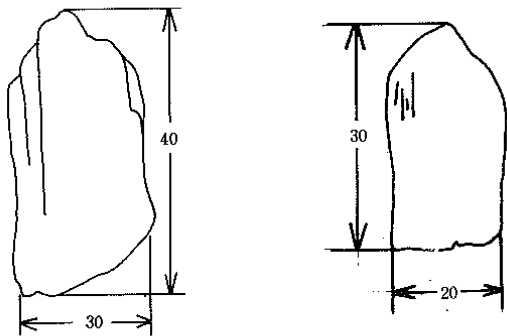
南北朝統一が成立したのが一三年前、幕府はその次年には土倉、酒屋の制を整えて経済力を強め、八年前には義満が金閣を造っています。又この頃から明に使を出して貿易の利をあげようとしていますし、一四年には京都に地口金をかけて、一五年には諸国に関所を設け関銭を取り立て、財政に力を入れているようです。又天下は凶

作による飢饉もおこっているようですが、上杉氏憲と足利持氏、そして幕府と戦を繰返して居る中で、能の完成者世阿弥は花伝書を完成して居るようです。

上野の国でも应永二年に義満は上杉憲定を上野・伊豆の守護に任じて居りますが、関東では戦乱が続き、岩松持国等が活躍し、二四年には鎌倉龍口で軒られています。

世良田長楽寺も盛

第39図 宝蔵寺墓地の板碑



だったようです。

このような戦乱の世の中、そしてはかない人生に多感な人等の来世を祈っての逆修だったのでしょ

うか。

墓地に二基の板碑がありますが紀銘なしです。(第三